

こんにちは。
町長です。

小松市との交流を通じてまちづくりを学ぶ



令和元年になり1カ月が経過いたしました。令和の元号もやっと慣れ親しんできたところ です。役場でも事務関係書類等の改元作業も無事終了することが出来ました。

さて、先月、小鹿野子ども歌舞伎が石川県小松市で開催された第21回日本こども

歌舞伎まつりin小松に出演いたしました。小鹿野子ども歌舞伎は第1回の公演を含めて今回で5回目の出演となりました。小松市からお招きいただく大きな理由として、小松市のお旅まつりの曳山(山車)の上で演じられる曳山子ども歌舞伎が有名で、小鹿野町も小鹿野春祭りの屋台で子ども歌舞伎が上演されていることから、ご縁が始まりました。また、小松市には歌舞伎演目で有名な「勸進帳」の安宅の関跡もあり「歌舞伎のまち小松」として、まちづくりを進めています。

小松市お旅まつりの説明文によりますと、「小松市は加賀百万石の基礎を築いた、前田家三代利常公が寛永17年(1640年)に小松城に隠居して以来、亡くなるまでの約18年間に、産業を振興し、特に以前からあった絹織物産業に京などから先進的な技術を取り入れ「加賀絹」ブランドを確立し、経済を活性化させるとともに寺や神社を町なかを集めるなど町割りを行い、また、

茶道裏千家の創始者・千宗室など多くの文化人を招き芸術文化を充実させるなど様々な施策を行いました。

これにより、産業・商業の中経済力をつけた町人は文化面でもリードするようになり、和歌、茶道、能楽、浄瑠璃などをたしなみ、小松のまちに町人文化を華開かせ、やがてお旅まつりの曳山の造営や曳山子ども歌舞伎の上演に至ります。」とございます。

小松市は、皆様もよくご存じの世界的な建設機械メーカー・コマツの発祥地でもあります。やはりこれも先人たちが築き上げたものづくりの精神やDNAが引き継がれて生み出されたものだと思います。

現在、小松市はお祭りや歌舞伎などの伝統文化・芸能の保存充実にも大変力を注がれておりますし、また、教育面でも公立の4年制大学を設置したり、科学の楽しさや魅力を伝える施設を整備して先端的教育カリキュラムの導入などを進め将来を担う人づくりを進めています。

城下町で発展した小松市と市場町の小鹿野町とは、歴史的な経緯は違いますが、小鹿野町の行政を進める上で、現在の小松市の取り組みは大変参考になる部分が多いと感じました。特に、歴史と文化を大事にする中で地域産業を振興し、将来を担う人づくり・教育を推進する、これこそ小鹿野町が今取り組むべき喫緊の課題であると存じます。

小鹿野町長 森 真太郎